

小泉信三全集 第14巻「読書論」文藝春秋1967年4月10日刊を読む

何を読むべきか

1. 「書籍を離れて何を読むべきかを論じている閑に、先ず書籍に向って突進せよ。」
「始めに実行ありき」(ファウスト)
兎も角も一応或る程度多く読むこと

2. 心がけて古典的名著を読むこと
 - (1) 第一流の標準的なもの
 - (2) それぞれの分野において、幾つかの流行浮沈を超越する標準的著作
 - (3) 取りつき憎い名著を読むことこそ大切、吾々が真に精神の栄養を感じ、思想の育成を自覚するは、これ等の古典的大著を読み了えたときである。
「幾世代を経て定評のある古典を読め」
「何時でも新しい本が出た度毎に古い本を読め」
「人は古い、証明せられた書籍を先ず重んずべきだ」
エドワード・グレイ

- (3) グレイは週末の暇を得て、イングランド北境の故郷の本宅に帰宅して書齋で読む本として、常に三冊の本を用意して置いた
 - ① 過去の時代の大きな事件と大きな思想を取り扱う、何時の世にも読まれる大著
例：ギボン著「図説 ローマ帝国衰亡史」
 - ② 幾世代相継いで承認せられた古い小説
例：サッカレー
 - ③ まじめな、或いは軽い近代書

3. いやしくも読書を志すものは、読書の用意と計画を持たなければならぬ、そうして、その計画の中には、力めて多くの古典を入れよ

4. (1) 「直ぐ役に立つ人間は直ぐ役に立たなくなる人間だ」
藤原工業大学(現慶大工学部)は、基本理論をしっかりと教え込む方針を確立。
同様の意味において、すぐ役立つ本はすぐに役に立たなくなる本といえる。
(2) 人を限界広き思想の山頂に登らしめ、精神を飛翔し、人に思索と省察を促して、人類の運命に影響を与えてきた古典。このすぐには役に立たない本(古典)によって、今まで人間の精神は養われ、人間の文化は進めて来た。

(3)「学問は謂わば無目的に、そのこと自体に熱中しなければ大成するものではない」

福沢諭吉

<コメント>

小泉信三先生の「読書論」。私はこの本を慶大入試の前日に読んで大いに感銘を受け、「大学に入ったら、このような読書をしたいものだ」と考え、試験に臨んだ覚えがある。久しぶりに読み返し、読書の原点を思い知った。

2019年2月26日(火)林明夫